

大人としての自覚を新たに

1月3日（火）、県内トップを切って、鶴田町の成人式が町国際交流会館で開催され、華やかな着物やスーツを着た新成人104人が、同級生との再会を喜び合うとともに、大人としての自覚を新たにしました。

相川町長は「皆さんは町の貴重な宝。ふるさと鶴田への愛着を持ち続けてほしい」と式辞。新成人代表の一戸魁人さんと成田麗花さんが「若者らしい情熱と行動力で期待に応えられるよう頑張りたい」と謝辞を述べました。

式典後には、新成人が企画した「成人のつどい」が行われ、中学校時代の恩師が当時のエピソードを交えながら、「皆さんの人生が良い出会いに恵まれますように」などとメッセージを贈り、新成人の門出を祝いました。



△リンゴジュースで乾杯する新成人の皆さん



あなたの地区の楽しい催しや出来事などがありましたら、役場総務課まちづくり班（内線264）までお知らせください。

出来秋を願い新春の剪定大会

高品質りんごの生産と収量増に向けた剪定技術の向上を目的に、1月7日（土）、県りんご協会（藤田光男会長）が新春の剪定大会を富士見湖パーク周辺の園地で開催し、津軽地域から参加した約1000人の生産者が剪定技術を学びました。

大会では普通樹とわい化樹の園地に分かれ、講師がノコギリやハサミを使って剪定を実演。「将来的に使う枝や花芽を残して」「新梢（新しく伸びた枝）の伸び具合を考えながら剪定して」などと参加者に剪定のポイントを説明していました。

平川市から参加した生産者は「プロの講師の実技を見られることは貴重な体験なので、今後のりんご栽培の参考にしたい」と話していました。



△実技を交えながら剪定のポイントを講師が説明

新年の防火・防災を誓う出初め式

1月8日（日）、鶴田町消防団（下山正彦団長）では、新年の出初め式を丹頂大通りで開催し、今年1年の無火災と無災害を願いました。

出初め式には、消防団員や婦人防火クラブ員ら約300人が参加。観閲者の相川町長から服装や姿勢の点検を受けた後、^{まとい}纏振りや分列行進を行い、消防活動への士気を高めていました。

続いて、国際交流会館で式典が執り行われ、平成28年度の秋の褒章で藍綬褒章を受章した櫻井博孝副団長に褒状が伝達され、鶴田町長表彰が4分団、町消防団長表彰が7人に贈られました。

下山団長は「よりいっそうの団結を図り、地域住民の安全を守りたい」と誓いました。



△丹頂大通りでは、纏振りや分列行進が行われました。



△（左から）大塚県警本部長、相川町長、奈良会長

交通死亡事故ゼロ1000日達成

町では1月8日（日）をもって、交通死亡事故ゼロ期間1000日を達成し、同月10日（火）、町交通安全対策協議会（会長：相川町長）と、町交通安全母の会連合会（奈良順子会長）が県警本部で表彰を受けました。

表彰式では、大塚泰博県警本部長が、相川町長に感謝状を、奈良会長に表彰状を贈呈しました。

町では、昭和49年10月6日から昭和52年7月5日までの1004日が交通死亡事故ゼロ期間の最長記録でしたが、今年の1月13日（金）で同期間1005日を達成し、記録を更新しました。

地区別の交通死亡事故ゼロ期間最長記録は、梅沢地区の6552日（1月31日時点）です。

高校生が救急救命処置を学ぶ

消防団の活動に関心を持ってもらおうと、鶴田町消防団では1月19日（木）、鶴田高校（前田済校長）で出前講座を開催し、参加した生徒が心肺蘇生の手順やAEDの使用方法を学びました。

出前講座では、救命手当の普及啓発に取り組む「応急手当普及員」の資格を取得した団員が講師を務め、「自分の体重を使ってひじや背中を曲げずに心臓マッサージをして」「AEDは水気をとってから使って」などと生徒に説明しました。

2年生の安田健さんは「人工呼吸は、息を吹き込むのが意外と難しかったです。今回の講座で消防団はかっこいいと思いました。将来は人の命を助ける仕事がしたいです」と話していました。



△消防団員からAEDの操作方法について学ぶ生徒